東京外国語大学『語学研究所論集』第 17 号 (2012.3), 117-127

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

中国語

加藤 晴子

孤立語的言語である中国語には，形態変化を伴うヴォイスの体系は存在しえないが，木村(2003)では，ヴォイスを「動作者と主語の関係を中心に，名詞表現の意味役割と格表示の対応関係の変更が何らかのかたちで明示的かつ規則的に反映される現象」であると考えるならば，構文論のレベルにおいてはヴォイスと呼べるものが存在するとして，中国語のヴォイスのパラダイムを次のように整理している[1].

指示使役文	X	叫	Y	A
放任使役文	X	让	Y	A
誘発使役文	X	使	Y	S
受影文	X	被	Y	AS
執行使役文	X	把	Y	AS

X：主語名詞
Y：動作・変化・状態の主体
A：スル的述語(動作)
S：ナル的述語(変化・状態)

本稿では，指示使役文，放任使役文，誘発使役文をあわせて使役構文と呼ぶことにする．さらに，受影文は，通常，受動文または“被字句”と呼ばれるものを指し，執行使役文は，通常，処置文または“把字句”と呼ばれるものを指すが，本稿では，それぞれ，受身構文，処置構文と呼ぶことにする．

以上に加え，中国語における自他，やりもらい，再帰，自発，全体と部分などについて，アンケート[2]に従い，以下，見ていくことにする．もちろん，すべてのカテゴリーが中国語において明示的であるわけではなく，うまく掬い取れなかったものもありうることを，あらかじめお断りしておく．

(1a) ドアが開いた．

门	开	了。
ドア	開く	助詞[3]

[1] 使われるマーカーがすべて異なるように示されているが，これは区別のためのもので，実際には“叫”と“让”はほぼ同じように使われ，“使、被”とも一定の条件のもとで交換可能である．データ中の“叫”はすべて“让”に置き換えられる．

[2] アンケートへの回答は，本学非常勤講師の曹泰和先生にお願いし，また，特任講師の劉長輝先生，博士前期課程 1 年太田有香さんにもご協力いただいた．

[3] “了”は動作の完了や事態の実現を表す助詞である．

(1b) 彼がドアを開けた.

i 他　开　了　门　…
　彼　開ける　助詞　ドア

ii 他　打开　了　门　…
　彼　開ける　助詞　ドア

iii 他　把　门　打开　了。
　彼　を　ドア　開ける　助詞

ほとんどの動詞は自他両用である．また，動詞に結果成分が結合した構造も多くは自他両用である.

停(止まる，止める)，　生(生れる，生む)，　开始(始まる，始める)
打败(負ける，負かす)，　淋湿(ぬれる，ぬらす)，　刮掉(散る，散らす)

ただし，(1b) i，ii に見るように，他動詞として使う場合，“他开了门…”“他打开了门…”は，安定性の低い，言い切りになりにくい表現である．この不安定さを解消するために，iii のような被動作者をマークする前置詞“把”を使った処置構文にする．この構文は冒頭にあげた木村(2003)のいう執行使役文で，「今彼がいるその部屋のドア」などのような特定されるドア[4]に対し，それをどのように取り扱ったかに重点が置かれる．この構文では“开”だけでは文が成立せず，“打开 (ニュートラル)”“推开 (押すドアの場合)”“拉开”(引くドアの場合) “吹开 (風による場合)”など，木村(2003)のいう「AS：スルーナル合体型」にして，どのように開けたかを示すことが必要になる.

一部，自動詞的意味のみを持つ動詞，他動詞的意味のみを持つ動詞もあり，それらの前や後に他の動詞(一部，形容詞)を結合することによって，自他を変換したり，両用にしたりすることができる．以下の例は，楊(1989)，望月(1990)，中島(2007)より.

自動詞的意味のみを持つ動詞→他動詞的意味のみを持つ動詞，自他両用の動詞
死(死ぬ)→咬死(かみ殺す)，　醒(目覚める)→喊醒(呼び起こす)
哑(嗄れる)→喊哑(叫んで嗄らす)，　到(届く)→送到(届く，届ける)

他動詞的意味のみを持つ動詞→自動詞的意味のみを持つ動詞，自他両用の動詞
煮(煮る)→煮熟(煮える)，　修(直す)→修好(直る，直す)
找(探す)→找到(みつかる，みつける)，　救(助ける)→救活(助かる，助ける)

[4] 特定されるものでない場合もあり，そのような場合について杉村(1999)は詳細な検討を加えている.

(1c) ドアが開けられた.

门	被	打开	了。
ドア	される	開ける	助詞

(1a)の自動詞による表現との違いは,“被、叫、让”などを使った受身構文により表される. 木村(2003)の受影文にあたる. ただし(1c)のように動作者が現れない場合には“叫、让”を使うことはできない. 受身構文も“开”だけでは文が成立しない. 三宅(2009)参照.

一方で, (1a)を「風でドアが開いた」としたような場合,「風」を動作者とみなした受身構文“门被风吹开了。(ドアが風に開けられた)”, および, 処置構文“风把门吹开了。(風がドアを開けた)”によってのみ表現可能である.

(2) 私は（自分の）弟を立たせた.

我	叫	弟弟	站起来。
私	させる	弟	立ち上がる

使役は“叫、让、使”などを使った使役構文により表される. 木村(2003)の指示使役文, 放任使役文, 誘発使役文にあたる.“叫、让、使”の替わりに, より具体的な意味を持つ動詞,“派(派遣する)、请(頼む)、劝(忠告する)、要求(要求する)、嘱咐(言いつける)”などを使うこともある.“叫、让、使”とこれらの動詞とは文法化の程度において連続していると考えられ, そのため“叫、让、使”は前置詞と完全にみなされるにはいたっていない.

楊(1989)によれば, 使役構文“太郎让次郎倒下。(太郎が次郎を倒れさせた)”と他動詞文“太郎打倒了次郎。(太郎が次郎をなぐり倒した)”との違いは, 使役構文が太郎から次郎へのことばによる指示であり, 次郎がそれを受けて自分の意志で倒れたという事態を表す可能性があるのに対し, 他動詞文では, 太郎の働きかけはことばによる指示ではなく, それを受けて次郎が倒れたのも, 自分の意志によるのではない, というところにある. 木村(2003)は, 中国語の指示使役文と放任使役文では, 被使役者の動作・行為の実現を必ずしも含意せず, 使役者がさせようとしたというところまでを表すにすぎないとしているが, 被使役者が「自分の意志で」指示に従わない可能性があるためと考えられる. 次の例でも, 他動詞文のほうに, エンジンが火を吹いたなどの緊急性が感じられるとの反応が得られたが, 乗客の意志決定を許す余地がないことを感じさせるためであろうか.

司机	叫	乘客	下	车。	/	司机	把	乘客	弄下	车。
運転手	させる	乘客	降りる	車		運転手	を	乘客	降ろす	車
運転手は客を車から降ろす.						運転手は客を車から降ろす.				

(3) 私は（自分の）弟に歌を歌わせた.

我　叫　　弟弟　唱　　歌。

私　させる　弟　　歌う　歌

(2)自動詞の使役と(3)他動詞の使役とで特に差異はない.

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた.

妈妈　叫　　孩子　去　　买　　面包。

母　　させる　子供　行く　買う　パン

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた.

妈妈　叫　　孩子　出去　　玩儿。

母　　させる　子供　でかける　遊ぶ

(4a)強制使役と(4b)許可使役とで，表現に差異はない．木村(2003)で指示使役文と放任使役文とするもので，木村(2000)では，両者の違いは使役者の関与が積極的か消極的かにあるとしている．冒頭の木村(2003)では，“叫”と“让”とで構文上の違いがあるように示されているが，注 1 に述べたように，実際には“叫”と“让”はほぼ同じように使われる.

(5a) 私は弟に服を着せた.

我　给　弟弟　穿　衣服。

私　に　弟　　着る　服

(5b) 私は弟にその服を着させた.

我　叫　　弟弟　穿　那　　件　　衣服。

私　させる　弟　　着る　その　助数詞　服

(5a)直接手を下して着せることを表すには，使役構文は使わず，受益者をマークする前置詞“给”を使う．(5b)使役構文は，(2)の箇所でも述べた通り，ことばによる指示など，間接的な行為を表し，しかも指示した行為が実現したかどうかまでは表さない.

(6) 私は弟にその本をあげた.

我　把　那　　本　　书　给　弟弟　了。

私　を　その　助数詞　本　に　弟　　助詞

(7a) 私は弟に本を読んであげた.

我　给　弟弟　读　那　本　书。
私　に　弟　読む　その　助数詞　本

(7b) 兄は私に本を読んでくれた.

哥哥　给　我　读　那　本　书。
兄　に　私　読む　その　助数詞　本

(7a)順向も(7b)逆向も同じ“给”によって表され，向きは常に“给”の前の成分から後の成分へ，となる.

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった.

我　叫　妈妈　给　我　剪　头发。
私　させる　母　に　私　切る　髪の毛

使役構文を使い，被使役者の行為を述べる部分で使役者＝受益者を“给”でマークし，その行為が使役者に恩恵をもたらすことを表す.

(8a) 私は（自分の）体を洗った.

我　洗澡　了。
私　入浴する　助詞

「体を洗う」を表現する普通の表現は，「入浴する」に相当する“洗澡”である.

(8b) 私は手を洗った.

我　洗　手　了。
私　洗う　手　助詞

(8c) 彼は手を洗った.

他　洗　手　了。
彼　洗う　手　助詞

自身の部分を洗うことを表す場合，１人称と３人称とで表現に差異はない.
洗うのが他者の体の部分である場合，それが他者への恩恵になる時には，日本語で所有

者として現れる他者が中国語では受益者として現れる[5].

我　给　爸爸　搓　　背。
私　に　父　　こする　背中
私は父の背中を流す.

部分に影響を受けそれが被害につながる場合，所有者を被動作者として受身構文で表すことができる．程(1999)を参照.

他　的　手　被　　狗　咬伤　　了。　/　他　被　　狗　咬伤　　了　　手。
彼　の　手　される　犬　かみつく　助詞　　彼　される　犬　かみつく　助詞　手
彼の手は犬にかみつかれた.　　彼は犬に手をかみつかれた.

(9) 私は（自分のために）その本を買った.
我　（为　　自己）　买　了　　那　本　　书。
私　　ため　自分　　買う　助詞　その　助数詞　本

強調の必要がなければ“为自己”がなくとも自分に買ったことになる.

(10) 彼らは互いに殴り合っていた.
他们　互相　　打。
彼ら　　互いに　　なぐる

(11) 彼らは《みな一緒に》町へ出発した.
他们　一起　上　街　了。
彼ら　　一緒に　行く　町　　助詞

(10)相互，(11)衆動ともに，特別な表現方法はない.

(12) その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）.
i　那　部　　电影　很　　感人。
　　その　助数詞　映画　　程度　　感動的な

---

[5] この形式は，行為が所有者に恩恵をもたらす時には，被所有物が譲渡可能なものであっても使われる．“今天我要给孩子做盒饭。(今日私は子供の弁当を作らなければならない)”など．楊(2009)参照.

ii 那 部 电影 使 人 流 泪。
その 助数詞 映画 させる 人 流す 涙

iは「その映画」について「感動的である」という性質を述べる表現，iiは使役構文を使った表現である．この例のように，非情物が主語となって何らかの反応を有情物に引き起こすことを述べるような場合，“叫、让”よりも，“使”を使うほうが普通である．木村(2003)の誘発使役文にあたる．

(13a) 私は卵を割った．

i 我 打 了 一 个 鸡蛋。
私 割る 助詞 1 助数詞 卵

ii 我 把 鸡蛋 打 了。
私 を 卵 割る 助詞

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った（割ってしまった）．

i 我 不小心 打 （碎） 了 一 个 杯子。
私 うっかり 割る 粉々 助詞 1 助数詞 コップ

ii 我 不小心 把 杯子 打 （碎） 了。
私 うっかり を コップ 割る 粉々 助詞

(13a)では，iが意志的行為・無意志的行為のどちらも表しうるのに対し，iiは“把”を使った処置構文であるにも関わらず，無意志的な行為，うっかりした場合しか表さない．一方，(13b)では，iもiiも，“不小心”がなければ，意志・無意志のどちらをも表す．この違いが何によるのか，興味深いところである．“碎”の有無は粉々か欠けたくらいかの，割れ方の程度に関わる．

(14a) きのう私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった．

我 昨天 喝 咖啡 喝 得 太 多， 怎么 也 睡不着。
私 昨日 飲む コーヒー 飲む 助詞[6] すぎる 多い どうして も 寝付けない

(14b) きのう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった．

我 昨天 工作 太 多， 一宿 都 没 睡。
私 昨日 仕事 すぎる 多い 一晩 すべて 否定 寝る

[6] “得”は程度を表す成分を導く助詞である．

(14a)不随意の場合では，動詞の後の結果成分を否定する，中国語文法でいう「可能補語の否定形」が使われ，(14b)随意の場合は，動詞を否定する形が使われている．前者では，動作による結果の実現のみが否定されるので，“着(寝入る)”かどうか，意志によって制御できない部分が否定される(眠ろうとしても目が冴える)のに対し，後者では動作自体の実現が否定されるので，“睡(床に就く)”かどうか，意志によって制御できる部分が否定される(仕事が終わるまでがまんする)という違いによるものと考えられる．

(15) 私は頭が痛い．

我　头　疼。
私　頭　痛む

(16) 彼女は髪が長い．

她　头发　很　　长。
彼女　髪　　程度　長い

(17a) 彼は（別の）彼の肩を叩いた．

他　拍　　了　　他　的　肩膀。
彼　叩く　助詞　彼　の　肩

(17b) 彼は（別の）彼の手をつかんだ．

他　抓住　了　　他　的　手。
彼　つかむ　助詞　彼　の　手

(15)一時的な場合も，(16)恒常的な場合も，表現に差異はなく，日本語と同様，一種の二重主語構文となる．また，(17a)(17b)もともに，所有者が移動することはない．(8b)(8c)の箇所も参照．

(18a) 私は彼がやって来るのを見た．

我　看见　他　来　　了。
私　見る　彼　来る　助詞

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている．

我　知道　　他　今天　来。
私　知っている　彼　今日　来る

中国語文法の考え方では「彼がやって来る」「彼が今日来る」をそのまま「見る」「知っている」の目的語としてとらえる．なお，(18a)の助詞“了”は，「見る」のほうにはをつけることができず，文末にのみつけることができる．

(19) 彼は自分（のほう）が勝つと思った．

i 他 觉得 自己 会 赢。
彼 思う 自分 可能性 勝つ

ii 他 以为 自己 会 赢。
私 思う 自分 可能性 勝つ

(18a)(18b)と同様，「自分が勝つだろう」をそのまま「思った」の目的語とする．ｉとiiの違いは，ｉが事前の予想であるのに対し，iiが「勝つと思っていたのに，勝たなかった」場合に使われるところにある．

(20a) 私は（コップの）水の半分を飲んだ．

我 把 （杯子 里 的） 水 喝 了 一半。
私 を コップ 中 の 水 飲む 助詞 半分

(20b) 私は（コップの）水を全部飲んだ．

我 把 （杯子 里 的） 水 全 喝 了。
私 を コップ 中 の 水 全て 飲む 助詞

(20a)部分に及ぶ動作でも，(20b)全体に及ぶ動作でも，“把”を使った処置構文で表される．部分に及ぶ動作では，分量を特定する成分が動詞の後に加えられ，全体に及ぶ動作では，「すべて」の意味を表す副詞“全、都”などが動詞の前に加えられる．

(21) 彼は肉を食べない．

他 不 吃 肉。
彼 否定 食べる 肉

(22a) 今日は寒い．

今天 很 冷。
今日 程度 寒い

(22b) 私は何だか寒い（私には寒く感じる）.

i　我　有点儿　冷。
　私　程度　寒い

ii　我　觉得　有点儿　冷。
　私　思う　程度　寒い

iは日本語と同様「私は」を主語として「何だか寒い」を述語とするような，論理的には正しくないと思われる表現，iiは(18a)(18b)(19)と同じように「何だか寒い」を「感じる」の目的語とする表現である.

「私は眠い.」と「私は《眠りたいが仕事などで眠れないので》眠りたい.」は，ともに同じ表現で次のように表される.

我　很　困。
私　程度　眠い

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

我　很　吃惊，居然　这么　多　人！
私　程度　驚く　意外にも　こんなに　多い　人

感情を述べる場合，その感情を引き起こす要因がモノ的表現である時は(12)のような“使”を使った使役構文で表せるが，コト的表現である時は，感情を表す部分と要因を示す部分を，別々に述べるしかないようである.

(24) 雨が降ってきた.

下　雨　了。
降る　雨　助詞

中国語の現象文は，動詞の後に動作者を置く構文が使われる.

(25) その本は良く売れる.

i　那　本　书　很　畅销。
　その　助数詞　本　程度　売れ行きがよい

ii　那　本　书　卖　得　很　好。
　その　助数詞　本　売る　助詞　程度　よい

「その本」についてⅰ「売れ行きがよい」という性質を述べる表現と，ⅱ程度を表す成分を導く“得”を使い，売ってみての結果を述べる表現が可能である．

「このナイフは良く切れる．」も，「鋭利な」という性質を述べる表現と，使ってみての感覚を述べる表現とが可能である．

这	把	刀	很	快。	/	这	把	刀	很	好	用。
この	助数詞	ナイフ	程度	鋭利な		この	助数詞	ナイフ	程度	しやすい	使う

参考文献

木村英樹 2000「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」『中国語学』247，pp.19-39

木村英樹 2003「中国語のヴォイス」『言語』32-4，pp.64-69

三宅登之 2009.「行為連鎖の観点から見た中国語の“被”構文」，東京外国語大学『語学研究所論集』第 14 号，pp.33-64

望月圭子 1990「日・中両語の結果を表す複合動詞」『東京外国語大学論集』40，pp.13-27

中島悦子 2007.『日中対照研究　ヴォイス―自・他の対応・受身・使役・可能・自発―』，おうふう

生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一編著 2008.『ヴォイスの対照研究　東アジア諸語からの視点』くろしお出版

杉村博文 1999.「“把格老汉感动得……”について」，現代中国語研究会『現代中国語研究論集』中国書店，pp.347-362

程遠巍 1999.「中国語に翻訳された文における受身文」，現代中国語研究会『現代中国語研究論集』中国書店，pp.363-372

楊凱栄 1989.『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』くろしお出版

楊凱栄 2009.「中日受益表現と所有構造の対照研究」『日中言語研究と日本語教育』第 2 号，pp.1-12